



学校通信

花となれ 光となれ

為己 遂志 躍清

令和6年12月9日

第17号

一関市立藤沢中学校

ちょうわ

新スローガンは「跳輪」～後期生徒総会～

12月4日（水）、後期の生徒総会が行われ、前期の総括とともに、第22期生徒会のスローガンと活動方針が提案されました。

提案された新スローガンは「跳輪（ちょうわ）」。全校生徒が「跳ねるように」進化して欲しい、という願いと、個性の違う一人ひとりが思いやりをもって「輪」になるようまとまって欲しい、という願いが込められています（議案書より）。

またこれらを達成するために、「ありがとうツリー」や「跳輪 week」など、個人の取り組みを皆で共有し、各々の次の行動へのきっかけにする取り組みも提案されました。スローガン、取り組みとも全会一致で承認され、1・2年生が中心となる第22期生徒会の活動がいよいよ本格的なものとなります。

現在、社会に目を向ければ、政治資金、SNS 選挙、韓国の戒厳令…など、民主主義の在り方を問うような問題が相次いでいます。そのような中で、改めて生徒たちが生徒会活動を通じて、民主主義の在り方や「政治」に参加することの意義について学んでくれることを期待しています。



「目標に向けての準備が大切」

～桜庭吉彦氏(釜石シーウェイブスGM)をお招きしてのPTA講演会～

12月5日（木）、元ラグビー日本代表で、現在日本製鉄釜石シーウェイブスゼネラルマネージャーの桜庭吉彦氏を講師にお招きし、PTA講演会を開催しました。

講演では、実社会でも共通するラグビーでの人材育成のことや、東日本大震災の被災地のチームとして、「生きたくとも生きられなかった人々に恥ずかしくない生き方」を誓ったこと、選手とともに支援活動を行ったこと、復興を後押しするためにワールドカップの誘致に尽力したことなどが話されました。

また日本代表になるという夢を叶えた経験から、目標を持つだけでは不十分で、①準備・行動をし続けること、②矢印を自分に向ける（失敗を他人のせいにしない）こと、③諦めないこと、④失敗・負けから学ぶことなど、生徒たち、特に進路について意識が高まっている3年生にとって非常にためになるお話もありました。

今回の講演会の企画・運営にご協力を頂きましたPTA役員の皆様、岩手県ラグビー協会の皆様に心より感謝申し上げます。



気づき、考え、実行する～奥能登豪雨被害支援募金～

11月27日（水）、生徒会役員の代表4名が藤沢支所を訪問、奥能登豪雨被害への義援金の贈呈を行いました。

奥能登地方では今年元日の大地震の被害も癒えぬ間に、9月に大雨に襲われ、多くの家屋が全半壊や浸水の被害を受けました。これに対し、何か藤沢中学校としてできることはないかと行われたのが募金活動です。2日という短期間の活動でしたが、13,740円の募金を集めることができました。ご協力頂いたご家庭の皆様、ありがとうございました。

本校は昨年度より青少年赤十字（JRC）に加盟しています。青少年赤十字は、生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人びととの友好親善の精神を育成することを目的として、世界中で展開されている活動です。タイトルの「気づき、考え、実行する」はこの青少年赤十字の態度目標であり、日常生活の中で意識していくことでさまざまな問題を自分事としてとらえ、主体的に解決しようとする力の育成につながると考えています。

今後も生徒たちの「気づき」を大事に、支援して参りたいと思います。ご理解とご協力のほどよろしくお願いします。



「本当の思いやり」とは～教職経験者5年研修講座研究授業～

11月29日（金）、本校を会場に教職経験者5年研修講座という教員の研修が行われました。採用後5年を経過した教員が受講する研修で、本校からは大沢教諭・金野教諭が受講、大沢教諭が道德の授業を提供しました。

3年B組の生徒たちは、最初こそやや緊張した面持ちでしたが、さすが3年生、すぐに慣れていつも通りの真剣な態度で、活発に意見を交わしました。

この日、題材として使われたのが右に示した、「電車の中で」という資料です。

本来は思いやり、心遣いとして行われるべきことが、マナーという価値観として定着しているために、かえってその実が伴わない、とまで言えば厳しすぎるでしょうが、少なくともその意味を理解しきれずに行われているのが、まさに生徒たちの（あるいは私たちも含めて）のリアルだと思います。

しかし授業の中では、それを乗り越えて、「ルールやマナーでそう決まっているから」とか、「他人にどう思われるか」ではなく、他者にいかに接するべきか「自分の頭で」考え、「自分から」行動を起こすことこそが「本当の思いやり」ではないか、という意見が出ていました。

本校の生徒は、授業態度も日常の生活態度も基本的に真面目です。研修会当日も生徒の授業態度（3年B組以外も含めて）や廊下でのあいさつなど、多くの方からお褒めの言葉を頂きました。しかしこれらも単なるマナーに留まらず、「相手の話に真剣に耳を傾けること」や「あいさつによって相手の気持ちを爽やかにさせること」に価値を感じられる…、そんな生徒に育てたいと思っています。



「電車の中で」 あらすじ

主人公タケシは、電車の中で同じ塾の女子2人が男性に席を譲る場面を見かける。

その1週間前、タケシは高齢者の席を譲る際の様々なトラブルを友達から聞き、しぶしぶ席を立っていると、高齢者の夫婦はそんなタケシの行為を勘違いし、タケシは予想外に感謝の言葉を受けることになった。

タケシは自分の行為と女子2人の行為を比べ、本当の思いやりとは何か葛藤する。